

多太神社 回向札

種 別 小松市指定文化財 歴史資料
指定年月日 平成 25 年 11 月 3 日
所 在 地 上本折町（多太神社）

多太神社の回向札は、歴代の遊行上人⁽¹⁾が齊藤実盛⁽²⁾の回向（死者の成仏を願う供養）とあわせて多太神社に奉納した木製の札で、19 枚に及ぶ。

遊行上人による実盛回向の起源については、『満済准后日記』⁽³⁾の応永 21 年（1414）5 月 11 日の条に、遊行 14 代太空が加賀国篠原（現加賀市）で実盛の亡霊に遭い、念仏を授けて霊を鎮めたという逸話がある。多太神社に実盛着用と伝えられる兜^{かぶと}等が伝存されていることから、遊行上人は当社にも立ち寄り、回向札を奉納するようになったと考えられる。

遊行上人によって奉納され残されている回向札の年代は、次のとおりである。

年未詳（康応 2 年（1390）カ） ⁽⁴⁾	寛永 6 年（1629）	承応 4 年（1655）
寛文 12 年（1672）	元禄 2 年（1689）	元禄 12 年（1699）
享保 14 年（1729）	延享 2 年（1745）	安永 2 年（1773）
文化 12 年（1815）	明治 10 年（1877）	明治 28 年（1895）
大正 8 年（1919）	昭和 8 年（1933）	昭和 31 年（1956）
		平成 17 年（2005）

遊行上人による実盛回向の話は、室町時代には都にまで伝わり、醍醐寺三宝院の『満済准后日記』にも記されている。この話をもとに世阿弥元清が猿楽能「実盛」を作成したことでさらに広く知られるようになり、近世以降、遊行上人による実盛回向と多太神社への回向札の奉納がなされている。

回向札には「南無阿弥陀仏」の名号のほか、年月や上人の名前などが記されていて、遊行上人による実盛回向を知るうえで貴重な資料であり、歴史的・民俗的価値が高い。

- (1) 遊行上人：神奈川県藤沢市にある時宗総本山清浄光寺（遊行寺）の住職。
- (2) 齊藤実盛：平安末期の武将。はじめ源氏に仕えていたが、平治の乱（1159）以後は平家に仕えた。源義仲が挙兵すると北陸に出陣したが、寿永 2 年（1183）、加賀国篠原での戦いで討死した。その亡霊が稲を食い荒らす虫になったとされ、虫送り行事が行われている。
- (3) 『満済准后日記』：現在の京都市の醍醐寺の座主であった満済の日記。重要文化財となっている。
- (4) 年未詳の回向札については、『能美郡誌』『遊行上人回向記』によれば「康応二年」とあるが、後世に作成された回向札とも考えられ、年代の確証はできない。しかし、この年未詳の回向札は、遊行 14 代太空による実盛回向の逸話を形にしたものとして貴重である。なお、『遊行日鑑』の享保 14 年（1729）2 月 20 日の条には「康応二年」の回向札として書き写されている。

